

第2次国分寺市ビジョン等策定検討委員会（第3回）要点記録

日 時：令和6年4月11日（木）午後7時～午後9時

場 所：国分寺市役所 第一・第二委員会室

出席者：牛山委員長、山岸副委員長、山下委員、富田委員、田窪委員、鈴木委員、森木委員、
安東委員、前田委員、小田委員、小柳委員、井上委員、関口委員、出町委員

欠席者：藤原委員、内藤委員、松本委員

次第

- 1 開会の挨拶
- 2 副市長からの挨拶
- 3 市の体制紹介

議事

- 1 第2次国分寺市総合ビジョン策定スケジュールの変更について（資料1）
- 2 国分寺市人口ビジョン（第3版）について（資料2）
- 3 新たな「国分寺ビジョン」（素案）について（資料3、4）
- 4 その他

（会議録）

次第

1 開会の挨拶

委員長より開会の挨拶を行った。

2 副市長からの挨拶

令和6年から新たに事務局の政策部を所掌することになった橋本副市長より挨拶を行った。

3 事務局紹介

新たに配属となった職員より自己紹介を行った。

議事

1 第2次国分寺市総合ビジョン策定スケジュールの変更について

事務局より資料1に基づき説明を行った。

委 員： スケジュールの変更理由について伺いたい。

事務局： 基本構想である国分寺市ビジョンは議決を要するが、議会より議案審査のタイミン

グで実行計画の骨子も併せて提示することを要望された。実行計画の策定作業のスケジュールを考慮すると当初予定していた6月議会への提案は難しいと考え、9月議会への提案に変更するスケジュールとした。

2 国分寺市人口ビジョン（第3版）について

事務局より資料2に基づき説明を行った。

- 委員長：多摩26市の中で平成30年から令和5年の人口増加率が1位であるが、その要因として何が考えられるか。
- 事務局：詳細な分析まではできていないが、農地の宅地化が進んでいる点、コロナ禍や住宅価格の上昇により都心からの人口流入が進んでいる点、保育園の整備により子育て世代から選ばれている点などが要因として考えられる。
- 委員：36ページの社会動態の将来推計について、増加幅が減少していく予想だが要因は何が考えられるか。
- 事務局：国立社会保障・人口問題研究所のデータを参考に社会動態を予想しており、元データが減少しているため本市の増加幅も減少している。日本の総人口の減少により転入者の総数が減少することが、その要因と考えられる。

3 新たな「国分寺市ビジョン」（素案）について

事務局より資料3に基づき説明を行ったのち、資料4を用いて国分寺市ビジョン（素案）の内容の検討、グループでの意見交換、全体への共有を行った。

（A班）：【未来のまちの姿の良い点】

- ・言葉が平易でリズムも良く、国籍や年齢を問わず受け入れられるのではないかと。
- ・防災や災害対策等の記述がないという意見があったが、実行計画に記載していただけのもので理解している。

【まちづくりの基本理念の改善点】

- ・シンプルで良いが、「成長」という言葉が多く出てくるため、成長することを強いられるように感じるという意見が多かった。「常に成長へとつながるまちづくり」を「豊かなまちづくり」などの表現に変えるというのも一つの案と考える。また、変化に類する言葉が少ない印象であり、「未来へつなげる」を「未来に向かう」や「未来を描く」という表現にするのはどうかという意見が出た。

（B班）：【未来のまちの姿の良い点】

- ・文字数が少なくなったことでポイントが絞れているという意見があった。また、言葉遣いも分かりやすくて良い。

【未来のまちの姿の改善点】

- ・6段落目で「国分寺の個性に触れることで、市民のまちへの愛着や誇りが一層醸成される」という一文について、4段落目に「国分寺に関わるすべての人」という文言があり、対象が揺れているような印象を受けるため「市民の」は削除してはどうか。
- ・「「国分寺市ビジョン」とは」の説明と「未来のまちの姿」の両方に「社会環境の

変化が激しい時代だからこそ…」という文があり重複しているように感じる。

- ・「更にその結びつきを強めていく必要があります」という一文についてハードルが高く感じるため、表現を工夫する必要があるのではないかという意見が出た。

- ・キャッチフレーズについて、「心をつなげ」という表現が命令形にもとれるという意見が出た。

【まちづくりの基本理念の良い点】

- ・「まちが成長するための原動力は人です」という表現について、人を中心に据えて言い切っているのは良いという意見があった。

【まちづくりの基本理念の改善点】

- ・「成長」がやや強い表現ではないかという意見があった。まちとしては大事な要素ではあるが、「全ての人が心地よさを感じられるまちを作る」といったような表現に変えるのも良いのではないかと。

事務局： 未来のまちの姿について、キャッチフレーズの「心をつなげ」が命令形と解釈できてしまうという意見があったが、代替案として話し合われた内容があれば教えていただきたい。

委員： 「心をつなげ」ではなく、「心をつなげて」としてもよいのではないかと意見が出た。一方で、「つむぎ」と「つなげ」とで語呂が良いので、どちらが良いという結論までは出なかった。

(C班)：【未来のまちの姿の良い点】

- ・キャッチフレーズで歴史を強調しているのは良いと感じた。

【未来のまちの姿の改善点】

- ・まちの説明で「個性」という表現は合わないように感じる。代案としては、「市の魅力」や「市の特徴」というような表現が良いのではないかと。

- ・3段落目に、史跡・文化財、科学などの記載があるが、これらの特徴はこれまでに形作られたものであるため、現在・未来の内容を記載しても良いのではないかと。また、「歴史」と「科学」の2つの項目を記載しているが、段落の末尾は「科学のまちとして知られています」となっており違和感がある。次の段落の「これらの個性は」との文章のつながりもあるので、併せて構成を再考してはどうか。

- ・キャッチフレーズの各ワードが、後段のどの文章と紐づけられているのかわかりにくいと感じる。

- ・「都市だけどこか懐かしく」という一文について、個人的には納得できる内容であるが、懐かしさは主観であるため、読む人の年代や立場によっては伝わらない部分もあるのではないかと感じた。

【まちづくりの基本理念の良い点】

- ・市の特徴を捉えていて非常に良い文章であるという意見が多くあった。

【まちづくりの基本理念の改善点】

- ・他のグループと重複するが「成長」が強調されている点は気になった。

- ・「新たな技術や時代の流れを力に変えて、常に成長へとつながるまちづくり」という表現が、未来に先送りにしているように感じるという意見があった。「成長」ではなく「活かしながら」や「活かしていく」という表現などが良いのではないかと。

・「共（とも）に」が未来のまちの姿とまちづくりの基本理念で、漢字表記とひらがな表記があるが、意図があれば確認したい。

事務局： 「共（とも）に」については、行政の扱う公用文のルールでは漢字表記だが、未来のまちの姿では、表現を柔和にする意図でひらがな表記としていた。また、「全（すべて）」も同様に、原則は漢字表記であるが、ひらがな表記を用いている。

「成長」がやや強い表現であることや、「心をつなげ」が命令形で捉えられてしまう可能性もあるということなど、事務局では気付かない視点である。今回の御意見を踏まえて、国分寺市ビジョンの内容を更に検討させていただく。

事務局： 各グループの発表を受けて、委員長・副委員長からコメントをいただきたい。

副委員長： 「成長」という表現に関する意見が多くあった。コロナ禍などを経て、社会情勢や人々の価値観が変化し、右肩上がりの成長は難しいという認識が広がり、成長を求められることへの窮屈さを市民の方が感じている印象を受けた。この点については、市と市民の立場や姿勢にギャップがあると感じた。個人の価値観や認識を市が正確に捉えることは難しいと思うが、これらの意見をどのように受け止め、政策に反映していくのかが重要になる。

委員長： 未来のまちの姿については、8年後に国分寺がどうなっているのかを示す必要がある。この視点で考えれば、キャッチフレーズの「ともに未来をつくるまち」については、持続可能なまちに向けて、皆で協力し合っているという姿が見えると思う。

一方で、「歴史をつむぎ」という表現については、どのような形でも歴史は紡がれるものなので、まちづくりの目標として反映する理由が不明瞭に感じた。ただし、歴史は国分寺にとって重要な要素なので、「歴史」というワードは残す必要があると思われる。また、「心をつなげ」という文言については、人の内面に踏み込むような表現にも解釈でき違和感を覚えた。心がつながっているまちはどういったまちなのか、ということをもう少し検討していただくと良いのではないかと感じた。

今後、未来のまちの姿と分野別の都市像がどのようにつながるのか、更に議論が必要になる。また、基本理念についても、シンプルなのは良いことだが、実行計画との紐づけを十分に検討していただくことが求められる。

委員： 委員長、副委員長は他の自治体の策定にも携わってきたと思うが、こういった検討の場は自治体ごとの特色が出る。それらを踏まえて感じた国分寺市の特徴があれば伺いたい。

委員長： 3月まで大田区の長期総合計画の策定に携わっていたが、羽田空港や商店街などの産業の要素が強く、「成長」に関する話題は多く出ていた。国分寺市は、市民参加に熱心で、会議形式よりも本日の委員会のようにグループワークが多く、和気あいあいと議論できる機会があるのは良い点であると感じる。また、住みやすさ・暮らしやすさに魅力を感じている方も多く、その点で、「成長」を強調し過ぎることに違和感を覚えるという意見が出るのも理解できる。

副委員長： 市のことは市民や市内で活動されている事業者・団体の方が一番詳しく知っているため、このように一同に会して和気あいあいと議論しているのは良いことだと感じる。今後も継続してほしいと思う。

4 その他

- 事務局 : 次回の委員会については、6月に実施予定のパブリック・コメントを基軸に考えているため、その状況を踏まえ改めて連絡する。
- 委員長 : 国分寺市ビジョンの案は本日の委員会の意見を踏まえ、パブリック・コメント用に更新されるのか。
- 事務局 : 本日の委員会に加えて、5月に議会に示す予定のため、これらの意見を参考にパブリック・コメント案にする。
- 委員長 : パブリック・コメント案ができ次第、本委員会の委員に事前に情報共有していただきたい。
- 事務局 : 委員長、副委員長と対応を協議しながらパブリック・コメントの実施前に委員の皆様にお示しさせていただく。
- 委員長 : これをもって第3回第2次国分寺市総合ビジョン等策定検討委員会を閉会する。

以上